



「くれんど」では実にいい顔を見せてくれる



多くの仲間たちに囲まれての生活介護事業所「くれんど」通い

海くん、父さんは22年前のあなたの事故直後、たとえ命が助かったとしても超重度の障がいが残ることを医師から知らされ、「西原丸という船に最後に乗った子が最初に降りてしまう」と言いようのない悲しみにとらわれました。

しかし今、その思いがいかに的外れなものだったかを、幾分の微笑をもつて振り返ることができます。

あれからあなたは親弟兄の慈しみに支えられながらも、自らががんばりで多くの困難を乗り越え、家族のなかに確固とした地位を築いてきました。

船から降りるところか、航海になくはならない重要メンバーに成長したのです。

もちろん、あなたを含めた家族の力だけで今日に至ったではありません。

数え切れないほどの善意（真に私心のない善意）の人たちの協力なしには考えられません。

しかもその多くの方々からの、「海くんから夢や力をもらった。こちらの方こそお礼を言いたい」という言葉は、親バカな私の心を大きな喜びで満たしました。

悪意ではなく、純粋な疑問として、「海くんには意識・意思はあるのですかと問う人がいます。

私は、今こうしてあなたが生きていることこそがあなたの意思（意志）だと、自信をもって答えられます。

■どんな人生を歩みたいのですか

しかし、そんな私にもわからないことがあります。

あなたはこれからどんな人生を歩みたいのですか。

姉兄と同じように家から出て、自立した生活を送りたいですか。

「きっと海くんはそう考えている」という思いと同じくらい（あるいはそれ以上）に、今と同じようないっしょの生活を楽しみたいとも思います。

それは、介護のほとんどを母さんに任せている私の無責任なわがままというだけではなく、母さん自身の迷い・悩みでもあります。

思えばぜいたくな悩みです。

でも私たちは心からそれを知りたいのです。

どうか、あなたの本心を教えてください。

この本は、海くんがごく普通の青年に成長したことを知ってもらいたいという、あなたの両親の願いをきっかけに生まれました。

今まで海にかかわってくださったすべての方々、私たちの取り止めのない思いを形にしてください。深く感謝申し上げます。

そして海くん、普通の青年としてごく普通の生活を送ってってください。

願わくば私たちがいなくなってから。